



四條畷市総合公園利用検討 概要版

平成 29 年度実施

1. 現地状況、公園計画の方向性

■四條畷市総合公園の現状



多目的広場（野球・ソフトボールなどの球技利用）、人工芝運動場（サッカー、サッカースクール利用）が整備され、既に供用が開始されている。主に休日を中心に、平日では夕方以降に多く利用されている。公園外周部の現況林内には遊歩道が設置されている。

■四條畷市総合公園の周辺施設



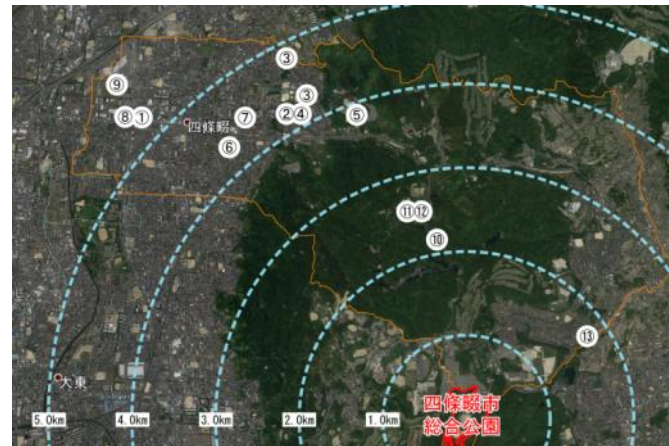
当該公園周辺には、大阪府内、近県でも珍しい施設『C.大阪ウオータージャンプ、D.ライダーパーク生駒（オフロードバイク）、E.スポーツランド生駒（サーキット）』が集まる。これら施設と同様に、面白い体験、貴重な体験ができるようなスポーツ・レクリエーション施設の導入を図ることで、この地域の魅力をさらに高めることができる。また、隣接して『A.生駒山麓公園』が位置することから、市域を超えた一体的な利用、機能の分担、往来できる連絡通路計画を検討する必要がある。

※生駒山麓公園の機能（テニスコート5面、サッカーやドッジボールなどの試合やボール遊びができる多目的広場（野球やソフトボールなどは不

可）、フィールドアスレチック 30 種類、大型木製遊具、ふれあいセンター（浴場、宿泊施設、研修室、レストラン）、野外活動センター（バーベキュー、キャンプ場）

さらに、『A.生駒山麓公園、B.むろいけ園地（緑の文化園）』には宿泊施設もあることから、企業や大学などの研修や合宿などを誘致することで、利用者の増加、近隣施設の利用促進、地域経済の活性化を図ることができる。

■市内の公共スポーツ施設の状況



四條畷市内には、市民が利用できるスポーツ関連施設は 13 施設（緑の文化園は大阪府）あり、施設の種類は、野球場、テニスコート、体育館、土グラウンド、ゲートボール場で、利用率から判断して、これらの施設は十分足りていると言える。

施設の多くは西側の市街地に集中している。平日・日中の利用頻度が低いのは、どの施設にも共通している。

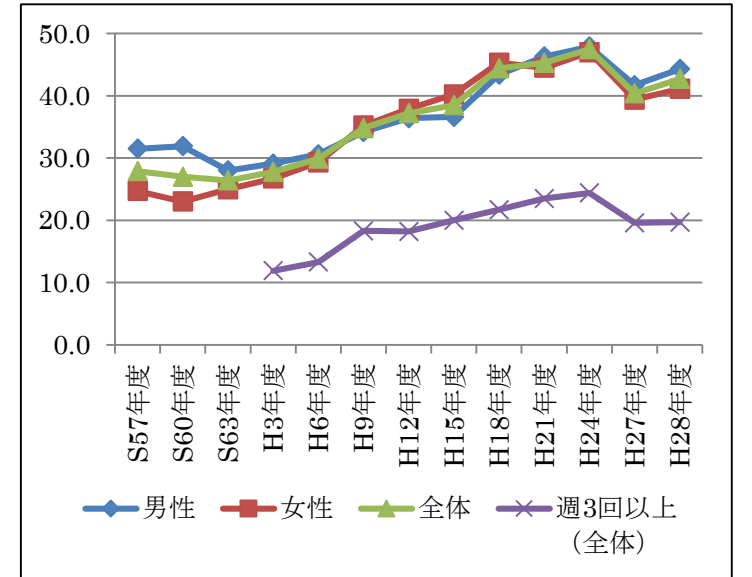
No	施設名	利用可能競技（H28 年度使用率%）
1	市立市民総合体育館サン・アリーナ 25	メインアリーナ（81.1%） 多目的室（87.9%）ゲートボール（70.2%） 相撲（11.0%）
2	市民グラウンド	市民グラウンド（34.5%）
3	青少年コミュニティ運動広場	多目的広場（25.8%）
4	市民グラウンドテニスコート	テニスコート1面（32.0%）
5	市民運動広場清滝	テニスコート3面（18.2%）ミニサッカーコート1面（2.2%）
6	市民運動広場さつき	ゲートボール場2面（10.6%）多目的広場3面（0.9%）
7	夜間運動場1（畷中）	グラウンド（野球・ソフトボール）（23.9%）
8	夜間運動場2（西中）	グラウンド（サッカー・ラグビー）（36.7%）
9	なわて水みらいセンターテニスコート	番地テニスコート（4面） 51.6%
10	野外活動センター	キャンプファイヤーサイト、天体観測室、宿泊施設
11	緑の文化園野球場・球技場	野球場2面・球技場1面（70.4%）
12	緑の文化園テニスコート	テニスコート17面（19.7%）
13	田原テニスコート	テニスコート1面（17.6%）

■公園計画の方向性

近年のスポーツ実施率について、平成 24 年度までの世論調査によると、成人の週 1 回以上のスポーツ実施率は、昭和 57 年の調査時点で 27.9%だったが、平成 24 年度まで上昇傾向にある。平成 27 年度に一度減少するものの、平成 28 年では成人の週 1 回以上のスポーツ実施率は 42.7%となっている。

都市公園利用実態調査（2015.3 国土交通省）では、都市公園には「自然や生きものとのふれあいの場」「災害時に避難できること」「運動、スポーツ、健康づくりの場」「花やきれいな景色を楽しめる場」としての機能が求められるが、利用頻度は週に 1、2 回で主に休日である。一方で、レジャー白書（2017 日本生産性本部）によると、余暇には観光・行楽をして過ごしたいと思う人が多く、余暇時間は減ってはいるが余暇支出は増えている。

当該地において、より多くの人に利用され、利用頻度を高める施設となるためには以下の条件が必要と考える。



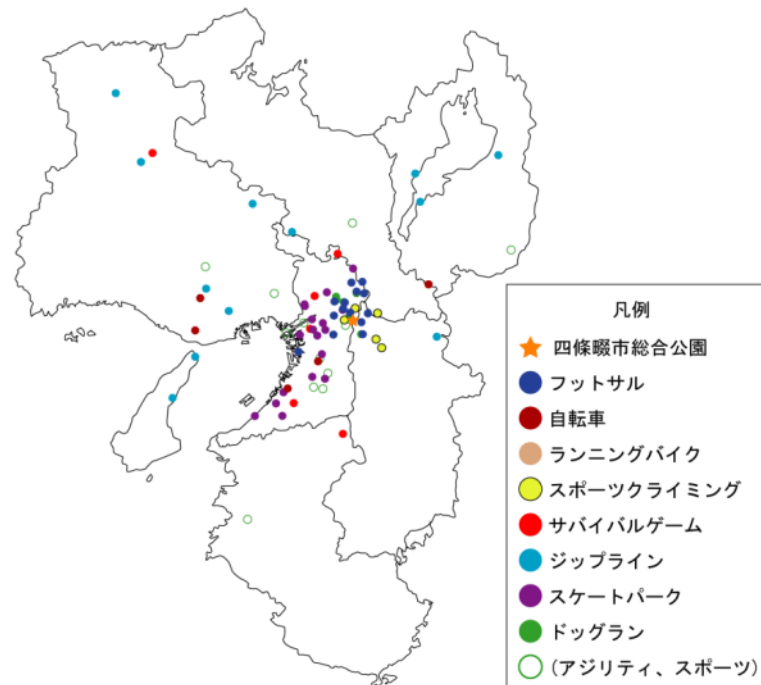
- ① 周辺のスポーツ施設と重複しない→ここでしかできないスポーツ・体験
- ② 観光・行楽の要素を含むような非日常的な体験ができる
- ③ 子供から大人まで年齢に関わらず利用できる→多様なゾーンの創出
- ④ 平日・日中の使用頻度を上げる
- ⑤ スポーツ×テクノロジー×健康×ニューツーリズム→産官学の協同

2. スポーツ・レクリエーション施設導入候補

■導入候補施設の種類



■近隣の導入候補施設の分布



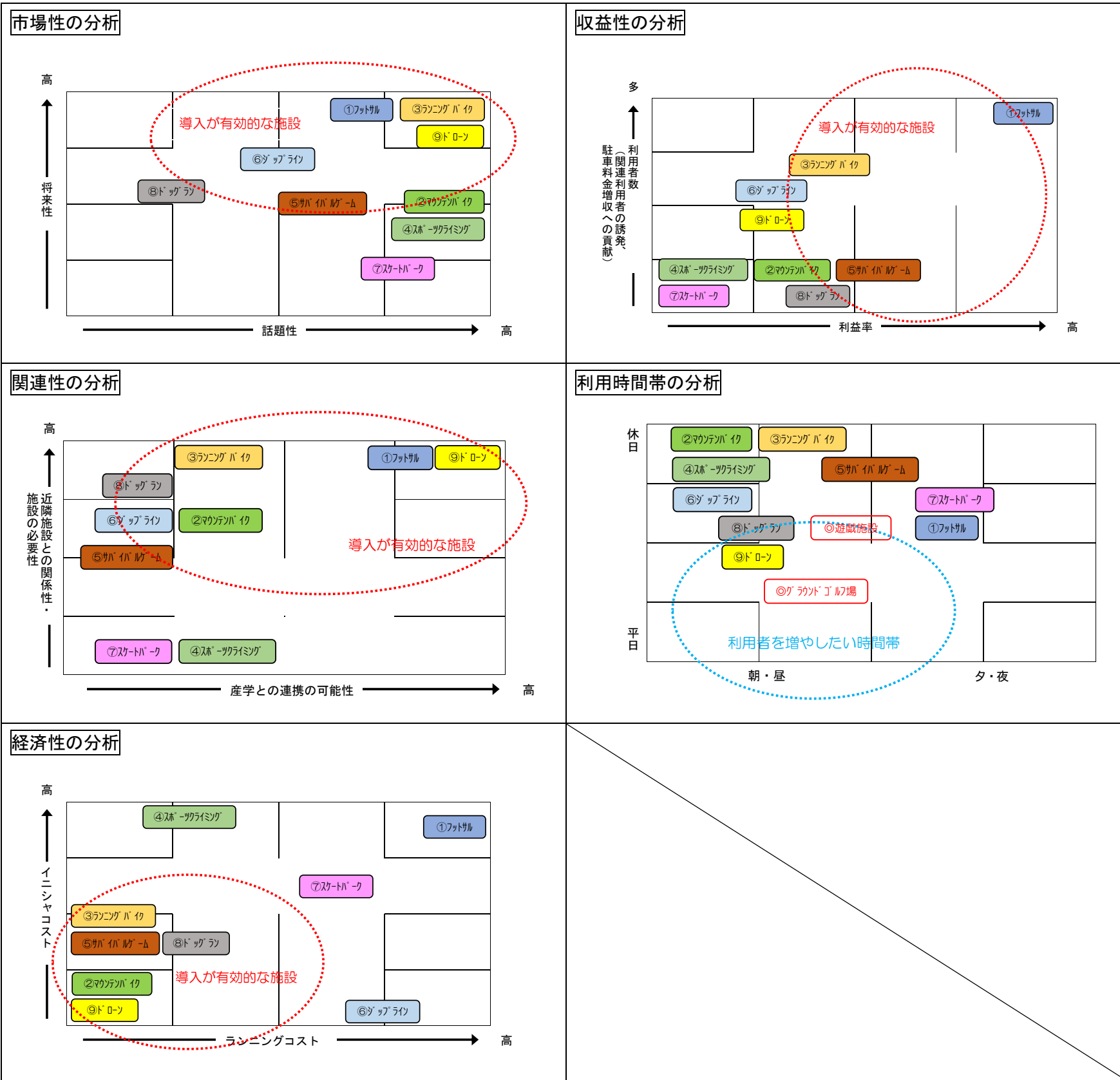
※調査範囲は大阪府を含めた近隣6県（滋賀県、京都府、奈良県、兵庫県、和歌山県）とした。
 ※フットサル施設については、施設数が多いため、四條畷市を含めた近隣市町村（大東市、生駒市、交野市、寝屋川市、門真市）とした。スケートパーク施設については大阪府内とした。
 ※ドッグラン施設についても、四條畷市を含めた近隣市町村（大東市、生駒市、交野市、寝屋川市、門真市）としたが、アジリティ、スポーツドッグランについては近畿6県を調査範囲とした。

■導入候補施設の現状整理（導入に向けて）

<p>①フットサル</p> <ul style="list-style-type: none"> 市内には、専用コートが1箇所（清滝）ある 民間施設が多い 平日、休日ともに夕方以降は空き少ない（ナイター営業が基本） 人工芝コートが多く、屋根付きコートは人気がある 平日の昼間は利用が少ない・平日夕方にサッカースクール、休日昼間に個サル、大会（イベント）を開催している施設が多い <p>■整備のポイント・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 昼間のサッカー以外の利用を検討 スクール事業を合わせて行うことが理想 ナイター営業は必須 屋根付きコートが理想（また、その他利用の幅が広がる） 現況を考慮しての金額設定 	<p>②マウンテンバイク</p> <ul style="list-style-type: none"> 近隣のレースが可能な施設は、クロスカンントリーでは1箇所、BMX レースでは2箇所ある クロスカンントリー競技は周遊できるコース（4~6km）が必要である・地形上、ダウンヒル競技のコースは難しい BMX レース競技のコースの設置には広いスペース（400m×10m=4,000m²程度※コース分だけ）が必要である 2箇所ある BMX コースは基本無料である <p>■整備のポイント・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> クロスカンントリーコースとして、周遊コースで4~69kmを設置することは難しい 当該公園では、愛好家レベルの利用者を受け入れる施設が適切 クロスカンントリーコース候補地は散策路とトレイルランニングコースを兼ねるため、日程や時間の利用制限が必要 BMX コースを設置できるスペースの確保が難しい 	<p>③ランニングバイク</p> <ul style="list-style-type: none"> ランニングバイクコースとして常時利用可能なものは近隣には2箇所ある（コーン設置によるコース） 様々な場所で色々団体によりレースが行われており、注目度は高い 専用コースと呼ばれるのは、ストライダージャパンが運営するコースしかなく、全国的にみても施設が少ない レースを行う舗装面はアスファルト舗装、芝生、ダートがある。 競技開催するための設備は少なく開催しやすい <p>■整備のポイント・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 管理面を考慮したらアスファルト舗装が最適 基本的に、舗装と縁石（アスカープ）、スタートゲートがあればコースは完成 舗装コース（スピード）とダートコース（凹凸面を走る、技）の2種類あれば、利用の幅が広がる
<p>④スポーツクライミング</p> <ul style="list-style-type: none"> 隣接する交野市のほしだ園地（公共施設）には、リード競技、スピード競技ができる本格的なクライミングウォールが立地する ボルダリングジム（民間施設）は、仕事帰りに利用できる都心部、駅周辺に多数立地する（行きやすい場所） <p>■整備のポイント・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ほしだ園地と同等もしくはそれ以上のクライミングウォールを設置するには、立地的にも、経済的にも難しい 本格的なボルダリング施設はクッションマットが必要になり、基本的に屋内施設となる 遊具レベルのボルダリング施設の導入は考えられる 	<p>⑤サバイバルゲーム</p> <ul style="list-style-type: none"> 室内フィールドは街中につくられ、屋外フィールドは郊外につくられている 民間施設に限られ、公共空間（公園）でのサバイバルゲームフィールドはない 施設等は不要なので、基本的にはスペース提供だけで成立する・バイオBB弾は、生分解性プラスチック製で2~3年で自然に還る 但し、分解される前に小動物が食べる可能性もあり、生態系への影響も懸念される <p>■整備のポイント・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 木々の間をすり抜けての戦闘となるため、プレー中に木々を折られる可能性があるため、国定公園外でのフィールドの提供が望まれる 弾除けの衝立等の設置は必要（利用者が設置） 	<p>⑥ジップライン</p> <ul style="list-style-type: none"> 郊外の施設が多い、都市近郊では施設が少ない 走行中の景観が良い場所につくられることが多い 数種類のコースを設置し、一周するタワーを開催している 長距離のコースは魅力、人気が高い インストラクターの雇用、教育が必要 <p>■整備のポイント・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 数種類のコースの設置（設置スペースの確保）が難しい 長距離のコースの設置が難しい
<p>⑦スケートパーク</p> <ul style="list-style-type: none"> 大阪、兵庫には充実した施設が多数あり 有料施設にするには、施設の充実、広いスペースが必要 隣接する大東市の深北緑地公園（公共施設）に、大規模なスケートパークが立地する <p>■整備のポイント・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 深北緑地公園と同等もしくはそれ以上のスケートパークの設置は現実的に難しい 移設可能なスケート用施設であれば、アスファルト舗装面に設置できることから、設置の可能性はある 	<p>⑧ドッグラン（アジリティ競技）</p> <ul style="list-style-type: none"> 民間施設が多い 小子高齢化が進む中、ペット産業は引き続き人気は継続すると予想できることから、ドッグラン施設の需要はある 通常のドッグラン（ノーリード放し飼い）犬同士あるいは飼い主間のトラブルが起こることが多い アジリティ競技限定のドッグラン公共施設は見当たらない <p>■整備のポイント・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 移動式の器具を使用すれば、空き時間のスペースを多目的に利用できる アジリティ競技を教える業者と連携を図ることが重要 	<p>⑨ドローン（レース）</p> <ul style="list-style-type: none"> ドローンレースは室内でも屋外でも開催可能 基本的には、電源とスペースがあれば成立する ドローン関連産業は今後の成長の期待が大きい ドローンレクリエーションの競技人口は増加する <p>■整備のポイント・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 森林部での自由なドローンレース練習場としては、敷地境界や上空規制（送電線）など問題が多い 不特定多数、自由に練習してもらうには、ゲージ（フェンス）などで四方、上空を囲うなど対策が必要

3. 導入施設の決定

■ 導入候補施設の分析結果



■ 導入施設の決定

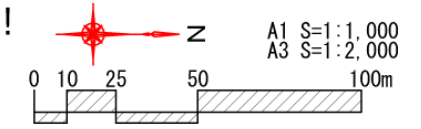
- ①フットサル⇒○ 人工芝コート2面、照明設備
将来的にも人気は継続し、スクール事業と合わせて、収益が見込める
関西初のブラインドサッカー対応施設とすることで、障害者スポーツの先導的な役割を担う
- ②マウンテンバイク⇒○ 練習用クロスカントリーコース（既設遊歩道の活用）
全国的にも少なく、ローコストでの建設、施設運営が可能
- ③ランニングバイク⇒○ アスファルト舗装面の常設コース
流行の兆しあり、ローコストでの建設、施設運営が可能
- ④スポーツクライミング⇒×
競技人口も少なく、建設費は高く、隣接市に巨大なクライミングウォールが立地する
- ⑤サバイバルゲーム⇒○ 斜面地フィールド、平坦地フィールド
（休憩施設、フェンス等の設置のみ）
公共施設では珍しく話題性があり、フィールドの貸出だけなので収益が見込める
- ⑥ジップライン⇒○ レンタルアミューズメント施設（設置場所の整備）
人気があり、集客能力は高い、しかし運営方法等を慎重に検討する必要あり（未知数）
- ⑦スケートパーク⇒×
競技人口も少なく、建設費は高く、隣接市に専用のスケートパークが立地する
- ⑧ドッグラン（アジリティ競技）⇒○ 草地フィールド
（休憩施設、フェンス等の設置のみ）
地元要望、ローコストでの建設、施設運営が可能
- ⑨ドローン（レース・関連事業）⇒○ 既存グラウンドを流用
フィールドの貸出だけなので収益が見込める、産官学協同の新しい公園利用形態を目指す
- ◆その他新規計画・追加機能
- ⑩グラウンドゴルフ⇒○ 既存グラウンドを流用
地元要望、高齢者利用の促進、平日の昼間の利用者の増加を見込む
- ⑪遊戯施設⇒○ 現行計画の遊具に加え、新規の遊戯施設を設置
子供利用の促進、平日の昼間の利用者の増加を見込む
- ⑫トレイルランニング⇒○ 既設遊歩道の流用
健康づくり×テクノロジー（ドローンの活用）
- ⑬森林セラピー⇒○ 既存森林の活用
健康づくり、癒しのスペースを提供する
- ⑭カブトムシの家⇒○ 簡易なカブトムシ育成小屋
子供利用の促進、体験

4. 公園テーマ・ゾーニングの設定

■ゾーニング図

(仮称) 四條畷フォレストアクティビティパーク (sports & wellness)

国立公園の自然豊かな森のなかで、スポーツに、趣味に、遊びに、ワクワク・ドキドキ再発見!!



■ゾーニングイメージ

スポーツのもり	人工芝運動場を中心に、体を動かすフィールドが集まったもりゾーン
こどものもり	こどもの歓声が森にこだまする、楽しさいっぱい、笑顔あふれるもりゾーン
かつどうのもり	自然地形（一部造成地形）を活用した、趣味と健康づくりの拠点となるもりゾーン
みんなのもり	公園の中央に位置し、大人数で多目的に利用できる土広場を有するもりゾーン
であいのもり	森と人、人と人が初めて出会う場所で、緑豊かな植栽がやさしく出迎えるもりゾーン

5. 新規計画・追加機能



マウンテンバイク拠点
 ※スタート・メンテナンスエリアとなる
 アスファルト舗装広場100m²
 赤色ロングコース1,600m、
 青色ショートコース800m
 ※臨時駐車場
 ※有料



ふわふわドーム
 ※空気で膨らませたトランポリンのよう
 に飛び跳ねて遊ぶ人気の高い遊具
 ※有料



グラウンドゴルフコース・ドローンスクール (飛行訓練フィールド)
 ※既設のグラウンドの活用
 ※有料 (グラウンド使用料)



ドッグラン
 ※自然地形を生かした草地フィールド
 1,100m²
 ※有料



レンタルアミューズメント広場
 ※ジップラインをはじめとする空中アスレチック
 ※レンタルなので色々なアスレチックが楽しめる
 ※設置可能面積2,200m²、直線確保80m
 ※有料



ランバイクコース
 ※ショートコース、ロングコース常設
 アスファルト舗装広場1,700m²
 ※ラジコンカーレース、ドローンスクール
 (飛行訓練フィールド)でも使用
 ※有料 (コース利用料、バイクレンタル費用)



土手すべり
 ※昔懐かしい土手を転がり遊ぶ
 ※無料 (そり貸し出し有料)



複合遊具&ザイルクライミング遊具
 ※法面遊具と大勢で多種の遊びができる複合遊具を合わせて
 遊戯広場の魅力アップ
 ※無料



サバイバルゲームフィールド
 ※斜面地フィールド4,200m²、
 平坦地フィールド650m²
 ※有料 (フィールド貸し出し費用、
 イベント参加費)



トレイルランニング拠点
 ※舗装広場 (森のステージ) 500m²
 黄色ロングコース3,000m
 桃色ショートコース1,300m
 ※無料



森林セラピー拠点
 ※舗装広場 (森のステージ) 500m²
 ※森林内で活動
 ※無料 (イベント参加費)



カブトムシの家
 ※カブトムシやクワガタの棲み処
 ※簡易なネットによる囲い小屋
 ※有料



フットサルコート
 ※人工芝コート2面、ナイター設備
 (フラインドサッカー対応)
 ※有料



ウォーミングアップ広場
 ※準備運動や休憩スペースとしての
 人工芝広場1,000m²
 ※無料

